

日本文学が世界遺産だとすれば

What if We Took Japanese Literature as World Heritage?

現在を過去に繋げる古典、記憶、アイデンティティー

Classics, Memory, and Identity as a Link from the Present Back to the Past

エドアルド・ジェルリーニ

Edoardo GERLINI

(カフオスカリ・ヴェネツィア大学 マリキュリー・フェロー、早稲田大学文学学術院訪問学者)

2019 年 4 月 6 日 (土) 15 時～17 時

早稲田大学 33 号館 16 階 第 10 会議室

15:00～16:00

講演 (使用言語：日本語)

16:05～17:00

コメント、ディスカッション

コメンテーター：

荒木浩 (国際日本文化研究センター教授)

松田陽 (東京大学大学院人文社会系研究科・文学部准教授)

林原行雄 (日本ユネスコ国内委員会元副会長、源氏物語ユネスコ世界の記憶登録推進委員会運営委員長)

Edoardo GERLINI (エドアルド・ジェルリーニ)

2011 年ヴェネツィア大学日本文学専攻博士課程修了。現在、欧州委員会が発する「マリ
ー・スクオドウスカ＝キュリー」フェローシップにより早稲田大学文学学術院に訪問学
者として滞在中。専門は、平安文学を中心とする和漢比較、和歌・漢詩、菅原道真、世
界文学など。2011～13 年、東京大学にて日本学術振興会特別研究員として、平安朝詩歌
と中世イタリアの宮廷詩人 (13 世紀) という比較研究を行い、2017 年に日文研に於い
て勅撰集編纂と政治的意志の関係を研究した。単著に『The Heian Court Poetry as World
Literature』(世界文学としての平安朝詩歌) がある。



主催：スーパーグローバル大学創成支援事業 早稲田大学国際日本学拠点

早稲田大学総合人文科学研究センター 角田柳作記念国際日本学研究所

共催：早稲田大学日本古典籍研究所

後援：European Union's Horizon 2020 research and innovation programme MSCA grant agreement No 792809

背景画像：京都府立京都学・歴彩館 東寺百合文書 WEB から

